



名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2023年度版)



2 飢餓を
ゼロに



SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 「SDGs将来世代創造フォーラム2023」&「中日SDGsフェア」に人文社会学部 曽我准教授ゼミの学生が出演

SDGs活動紹介

「SDGs将来世代創造フォーラム2023」&「中日SDGsフェア」に人文社会学部 曽我准教授ゼミの学生が出演



活動の概要	<p>2023年8月23日（水曜日）に開催された「SDGs将来世代創造フォーラム2023～我々の『つなげる力』で、世界を変える一歩を～」（アサヒ飲料中部北陸本部企画）および8月27日（日曜日）に開催された「中日SDGsフェア」（中日新聞社主催）に人文社会学部心理教育学科の曾我ゼミ生が出演し、SDGsにつながる行動を考えるワークショップで来場者との交流を楽しみました。</p> <p>両イベントとも、来場者のみなさんに「絵地図」（◎日本国際理解教育学会）にあるSDGsにつながる状況を読み取り、それに対して「自分で何ができるのか」を考え、付箋紙に記入していただきました。「SDGs将来世代創造フォーラム2023」には64名、「中日SDGsフェア」には118名の方がこのワークに参加してくださいました。ありがとうございました！</p> <p>8月27日（日曜日）開催の「中日SDGsフェア」では、4年生が昨年のSDGs IDEA FORUM2022で最優秀賞を受賞した「なごやばく博物館」の内容をもとに、現在の活動一実施しているSNSをつかったなごやめしに関する情報提供について報告をおこないました。好評をいただいた上で、学生たちも喜んでいました。</p> <p>こうした学外のイベントに参加することで、地域の方々とお話しする機会をいただけるので、学生たちにも多くの学びがあります。少しでも多くの方がSDGs達成につながる行動について考え、実行に移してくれることを願っております。またの機会を楽しみに。</p> <p>以下に、参加者からの声をいくつか紹介します。</p> <p>【SDGs将来世代創造フォーラム 8月23日@吹上ホール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルを100%ペットボトルに戻す！ ・自然由来の物を消費する ・太陽光パネルを増やす！ ・子どもの貧困解決に寄付する ・ゴミを減らす ・プラスティック製品の利用をへらす！ ・発電のエネルギーになりそうなものを身近なところから見つける ・CO₂の排出をへらす ・水を大切に使う ・海にゴミを捨てない！！ ・伝統文化に触れる機会を増やす！ ・ゴミの分別・する場所に捨てる ・食べ残さない ・ごみをひろう！ ・自然を優しく大切に！ ・エコカーに乗る ・ゴミひろいボランティアに参加する ・公共交通機関に乗る ・節約をする ・エシカル消費に努めます <p>【中日SDGsフェア 8月27日@ウインクあいち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイすてしない ・プラスチック製品の使用を控える ・公共交通機関をなるべく使おう！ ・無駄にしない生活を心がける。人とのつながりを大事にする ・フェアトレードをする。地産地消 ・ごみひろい ・紙の節約をする！ ・綿（木々）を枯らさない為に、排気ガスを出さないようにする。 ・食材を使い切る ・ゴミの分別をしっかりする。するとき、ペットボトルのキャップ分ける、ラベルもどる ・みんなで協力してごみはきめられた所にする ・コンポスト設置、生ごみ減少 ・海をきれいに、ごみを出さない！ ・地域のごみ拾いに参加 ・ごまめに電気を消す！ ・ペットボトルをポイすてしない！ ・自然の恵みを大切にする ・競争ナクソウ、対話をする ・海洋プラスチックゴミをゼロにする取り組みに参加したい ・海のごみをひろう、山にごみを落とさない、車の利用を最小限にする、電車をできる限り利用する、ムダな電気は消す
活動の時期	2023年8月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgs-practice/20230226001/



2023年8月23日に集まった「SDGsアクション」



2023年8月23日来場者との交流の様子（1）



2023年8月23日 来場者との交流の様子（2）



2023年8月27日に集まった「SDGsアクション」



2023年8月27日 来場者との交流の様子



2023年8月27日 当日のプレゼンの様子

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部	医学研究科
看護学研究科	

交通アクセス

キャンバスマップ

港子（山の畑）キャンバス

〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畠1

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

交通アクセス キャンバスマップ

田辺通キャンパス

〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンバスマップ

交通アクセス キャンバスマップ

北千種キャンパス

〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンバスマップ

交通アクセス キャンバスマップ



大学案内・
教育情報の公
表

学部・大学
院

受験生の方
図書館・病
院・
附属施設

在学生・保護者の方
教育・学生生
活

卒業生の方
キャリア・就
職

企業の方
研究・産学官連
携・
社会貢献

一般の方・教職員志望の方
国際交流・留
学

ご支援をお考えの方
入試情
報

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > NCUサステナビリティ・ワークショップ2023を開催

全画面プリント 本文プリント

SDGs活動紹介

NCUサステナビリティ・ワークショップ2023を開催



活動の概要	<p>2023年11月4日（土曜日）にNCUサステナビリティ・シンポジウム2023「住から考える持続可能な都市 名古屋」（名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科曾我幸代研究室主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・名古屋市立大学SDGsセンター後援）を開催しました。</p> <p>住というと、住宅や建築、まちづくりという印象を受けるかもしれません、それには経済や社会システム、自然のバイオルズムが深く関わっています。住は、私たちの生活そのものです。これまでにテーマに掲げた食や防災は、SDGsのゴールにもある貧困や飢餓、健康、エネルギー、気候変動、生物多様性にも深く関わっていました。住も同様に、複合的かつ分野横断的なテーマであり、それはSDGsを包括的に捉え、各ゴールやターゲットにあげられていない状況にも目を向けさせます。「住」をどの切り口からみるのかによって、その現れ方は異なり、またそれは文化による差異にもつながります。</p> <p>そこで、今回はさまざまなこと（貧困、飢餓、食など）に関連する「住」を通して、自らの暮らしや営みをふり返り、どのような持続不可能な状況を生み出しているのか、またいかに持続可能なり方にシフトできるのかを考える機会としたいと思いました。これまでの開発がこうした差異に目を向けて逐一繰り返されてきたのだとすれば、私たちの住環境に現れる多様性は失われていきます。私たちがどのような社会を求める、どのような開発のあり方を望むのかを考え、それを実行に移していく必要があることを改めて共有することの大切さを再確認できる機会となりました。それは、SDGs未来都市という看板を掲げる名古屋という都市社会において、社会的公正や環境保全に配慮した開発のあり様がなされているのかを自らの足元から考える契機とも言えるかもしれません。</p> <p>そこで本ワークショップでは住とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきこととは何かを考えました。子ども・若者の視点から、何が問題で、それらにどのように取り組むことが求められるのかを考え、発表しました。その上で、SDGsのアイコンを街中でよく見掛けるようになった昨今のSDGs未来都市としての名古屋のあり様を考え、参加者全員で自らの足元から考えました。</p>
開催日時・場所	2023年11月4日（土曜日）午後1時30分から午後3時30分まで 名古屋市立大学ampusキャンパス1号館2階201教室他
スケジュール	<p>午後1時30分から午後1時40分まで 開会の挨拶・趣旨説明</p> <p>午後1時40分から午後1時45分まで ワークショップの説明・各会場へ移動</p> <p>午後1時45分から午後2時40分まで 高校生・大学生協働ワークショップ</p> <p>午後2時40分から午後3時20分まで 全体会</p> <p>午後3時20分から午後3時30分まで 閉会の挨拶（SDGsセンター長 薬学研究科教授 林秀敏）</p>
参加校・ゼミ	<p>高校生：名古屋市立北高等学校 名古屋市立名東高等学校 名古屋経済大学市邨高等学校</p> <p>大学生：名古屋市立大学看護学部地域保健看護学ゼミ 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科曾我ゼミ</p>
参加者の声	<p>【高校生】自分は防災についての学びを発表したが、他のテーマに関することだととも、全部の共通点としてコミュニティの繋がりが挙げられて、うまくコミュニティ資源の活動をすることで、コミュニティの繋がりが強くなると感じました。また、他のグループの意見を聞いて、コミュニティの繋がりが強まっていく中でうまれる価値観の違いがあるが、それは合わせる必要がなく、互いに尊重していくのが良いと思いました。</p> <p>【高校生】他校の子が何を学んでいるのか、どんな活動をしているのかを知る良い機会になった。「人とのつながり・関わり」をテーマにしているグループが多かったが、こういうワークショップに参加し、校外でのコミュニティを作ることも大切だと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観は違うから、様々な価値観にふれ合ってみる。 ・オンラインイベントばかり参加したり企画したりしているので、オフラインのイベントを企画して地域での交流を作るのは楽しそう。 ・私は人、地球は人中心ではない（もっと視点を広げて考えないかん）。 <p>【高校生】自分の高校だけでも他の子の意見や感想に対して“発見”や“気付き”があったけど、他の高校や年の違う人達の違う視点からの意見や考えを聞いて新しい発見がたくさんありました。普段の高校生活では、同じ学校同士での意見交換の場はたくさんあるけど、違う学校の人達と話をしたりする機会はあまりないので、楽しかったです。</p>

【高校生】今回、他の学生が半年～一年間かけてやったこと、学んだことを聞いて、例えば、“防災”や“看護”、“食”など問題点を見た時に、それができるために、“人と人で協力”しないとできないことに気づき、人をもっと大事にしようと思いました。もっと子どもや高齢者を大切にしていくような町づくりをしたいです。

【高校生】「住」というテーマになると、その結論もバラバラになると思っていた。けれど、皆たどりつくところは同じで、その過程はグループごとに様々だった。自分と同じ考え方や違う考え方もあり、とても興味深かった。

【大学生】「人とのつながり」を問題点としているグループが多く、誰もが問題意識をもっている一方で、つながりが希薄化している現状があり、行動に結びつけることが難しい問題なのだろうかと思いました。

【大学生】所属する学部や学科によって、同じ住であってもその見方は様々であり、非常に興味深かったです。防災や食、地域環境やその土地に住む人々など、住には様々な要素が存在しているが、その根底にいるのは、その地域に暮らす人々であり、人々がつながって、協力し、コミュニティを築きあげることで、これらの問題にアプローチ、解決していくのだということを学んだ。とても良い経験をすることができました。

【大学生】色々な学校の方の学びが聞けて良かったです。改めて自分の周りの住環境についてや、将来的環境について考え、持続可能性、この先も住み続けていくことが出来る住を考えるきっかけになりました。今後も色々な人が自分のこととして、住環境を考えていくことが出来ると良いコミュニティになっていくのかなと思いました。

【大学生】発表を聞いたり、話し合いをしたりして、人とのつながりとそれをつくるためのイベントが大切だと感じました。今の社会は「個」を尊重していて、それが影響して人とのつながりがうすれていると分かりました。挨拶など気軽にできることからはじめて、サロンや町内のお祭り、ワークショップなどのイベントへの参加につながると分かりました。子どもから高齢者まで幅広い世代が参加し関わりえることが大切で、みんなが楽しめることも重要だと強く感じました。

【大学生】高校生たちの取り組みや課題意識を聞いて、大学生である自分も本当に勉強になりました。人間中心の暮らしではなく、“地球中心”的視点による暮らしづくりの必要性を強く感じました。

[サスティナビリティワークショップ（チラシ）（PDF ファイル 1.74MB）](#)



グループ発表の様子



グループワークの様子



参加した高校生と大学生の集合写真

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

滝子（山の畑）キャンパス

〒467-8501

名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畠1

田辺通キャンパス

〒467-8603

名古屋市瑞穂区田辺通3-1

北千種キャンパス

〒464-0083

名古屋市千種区北千種2-1-10

医学部	医学研究科
看護学研究科	

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

学部生が愛知県「事業系食品ロス削減取組事例集」の作成に参加

食品ロス削減に向けて愛知県が2024年3月に発行した冊子「事業系食品ロス削減取組事例集」の作成に、人文社会学部国際文化学科4年 清住麻衣さん

が担当しました（参考：2024年3月）。

この冊子は、積極的に食品ロス削減に取り組む県内の食品関連事業者の事例をまとめたもので、県内の市町村や食品関連事業者などに配布されたほか、webサイトに公開されるなど県の普及啓発活動に活用されています。

【報告者】人文社会学部 国際文化学科4年 清住麻衣さん

2023年度（令和5年度）の8月から11月まで、愛知県が主催する「事業系食品ロス削減の取り組み事例集」を作成する企画に、大学生記者として参加しました。

フードロスに関心を抱いたきっかけは、以前アルバイトしていた飲食店です。そこで毎回大量の食材を廃棄することに心を痛めていました。そのため、フードロス削減に挑戦する企業の方たちの取り組みを間近で学びたいと思い、応募させていただきました。

この企画の目的は、食品ロス削減に取り組まれている企業の取組を紹介し、その促進を目指すことです。初開催となる今回は、愛知県の大学生17名が企業8社に取材しました。

私がお話を伺った企業様は、パッケージの工夫によって食品の賞味期限を延ばし、食品ロスを削減するという、初めて目にすることでした。

最初に、参加者全員で食品ロスの現状を学びました。次に、取材先の決定とインタビューの方法を教わりました。その後、チーム別に取材の事前打ち合わせを重ね、私たちのチームは9月初旬に取材先を訪問しました。そして、原稿の下書きをライターの方に推敲していただき、事例集の記事を完成させました。



取材を始める前は、記事のメインとなる事例を一つ教えていただき、それを深堀しようと考えていました。ところが、取材が始まると、食品ロスに関する様々な事例や、SDGsに配慮した製品を次々に説明していただきました。

取材後に、チームメンバーと一緒に話し合い、教えていただいた複数の取り組みを違和感なく記事に盛り込めるように工夫しました。その結果、取材先の企業様のお考えを反映した記事にできました。

また、この企画を通じ、他大学のメンバーと、編集を助けていただいたライターの方など、普段は交流する機会のない人々から、自分にはなかった発想、考え方、文章力などを学べたことは、貴重な経験でした。

なお、この冊子は愛知県HPからダウンロードすることもできます。
ぜひご覧ください。

<愛知県ホームページ>
「事業系食品ロス削減取組事例集を学生記者と作成しました」



「事業系食品ロス削減取組事例集」表紙

関連リンク

[愛知県 食品ロス削減Webサイト](#)

「食品ロスゼロのあいちに向けて」にリンク